

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 9月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2674000316
法人名	有限会社 アールエムシー
事業所名	洛和グループホーム千代原口
所在地	〒615-0847 京都市西京区御陵谷町29-2 (電話) .075-382-3121

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年8月28日	評価確定日	平成20年10月22日

## 【情報提供票より】(20年7月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 1月 4日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 16 人
職員数	15 人 常勤 8 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 13.2 人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000~80,000 円	その他の経費(月額)	28,000 円	
敷 金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,666 円	

## (4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	74 歳	最高	101 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	洛和会丸太町病院
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

信頼の医療・介護システムを展開する洛和会ヘルスケアシステムの一つである当該ホームは、西京区の住宅街の一角に位置しています。玄関先はテーブルや椅子を置き、利用者が植えた季節の花がうまく演出しています。ホームでは地域との関係づくりを大切にしており、ホームの夏祭りに近隣の方を招待したり、地域の清掃活動に参加する等の取り組みを行っています。高齢者ボランティア受け入れ事業所として登録し、利用者、ボランティア双方の生きがいを支援しています。また家族との関係も大切にしており、利用者の日々の生活や健康面での報告もきちんとされるなど、安心して過ごせるホームです。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の改善課題については、家族と相談し自宅より馴染みのものを持ち込んでもらい、居室でゆっくり過ごせる工夫をするなどして改善に取り組んでいます。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価票は白紙の用紙を全職員が分担して記入し、回収した物を回覧して見直しを行ない、管理者が取りまとめをして作成しました。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に一度、利用者、家族、民生委員、地域包括センター職員、ホーム職員等が参加して開催されています。会議では、利用者の状況報告や行事報告がなされ、家族からの苦情や意見を聞いて、参加者全員で話し合われています。また民生委員から職員の意識に対する意見や助言を頂いたり、地域の情報を得るなど、有意義な会議となっています。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームでは8月に第1回の家族会を開催し、直接家族の率直な思いを聞きました。また面会の際にも意見を聞いています。法人でも年に2回顧客満足度調査を実施して家族の意見を聞き、結果を家族に報告しています。出された意見は会議にて職員で話し合い、サービスの向上に努めています。今後は運営推進会議に合わせ、家族会を定期的に開催する予定です。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入会しており、利用者は地域の編み物教室に出かけたり、地藏盆にお供えを提供しています。また夏祭りをホームで開催し、地域の方々に声をかけて参加いただいたり、地域の草刈りに職員が参加する等して、地域の一員としての役割を担っています。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を、玄関と階段踊り場の家族や外部者等にわかりやすい位置に掲示しています。ホームでは常に地域とのかかわりを大切にしていますが、事業所独自の理念を作り上げるには至っていません。	○	理念は事業所が目指すサービスのありかたを端的に示したものです。利用者が地域で暮らし続けていくために、何が大切かを職員全員で話し合い、事業所独自の理念を作り上げられることを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者始め職員は、法人の理念に添ったケアを日々心がけています。地域の方々にいつでも気軽に立ち寄ってもらえるようなホームをめざして努力していますが、8月に管理者が変わったこともあり、職員全員で話し合い、思いを共有するには至っていません。	○	理念について職員全員で事あるごとに話し合い、確認され、利用者や地域との関わりの中で実践されることを期待します。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会しており、利用者は地域の編み物教室に出かけたり、地蔵盆にお供えをし利用者と一緒に参加しています。高齢者ボランティア受け入れ施設として登録し、利用者、ボランティア双方の生きがいを支援しています。また夏祭りをホームで開催し、地域の方々に声をかけて参加いただいたり、地域の草刈りに職員が参加する等して、地域の一員としての役割を担っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価票は白紙の用紙を全職員が分担して記入し、回収した物を回覧して見直しを行ない、管理者が取りまとめをして作成しました。また昨年の改善課題については、家族と相談し自宅より馴染みのものを持ち込んでもらい、居室でゆっくり過ごせる工夫をするなどして改善に取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回、利用者、家族、民生委員、地域包括センター職員、ホーム職員等が参加して開催されています。会議では、利用者の状況報告や行事報告がなされ、家族からの苦情や意見を聞いて、参加者全員で話し合われています。また民生委員から職員の意識に対する意見や助言を頂いたり、地域からの報告や情報を得るなど、有意義な会議となっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人担当者が統括し、市担当者を訪れ、相談や情報収集を行っています。またホームでも、車いすなどの物品貸出について相談に訪ずれたり、研修やボランティア受け入れについて市担当者から情報を得ながら交流を図っています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活の様子を便りにして、毎月請求書と一緒に手渡しで報告したり、郵送しています。その際、利用者の普段の写真、バイタルが記入された健康観察記録、毎日の食事摂取量・排便・洗濯内容が記入された日常生活チェック表、金銭出納帳に領収書を添付した物を同封して、家族に安心してもらえる支援をしています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームでは8月に第1回の家族会を開催し、直接家族の率直な思いを聞きました。職員の名前と顔が一致しないので分かるようにしてほしいなどの意見があり、顔写真入りの組織図を作る予定です。また面会の際にも意見を聞いています。法人でも年に2回顧客満足度調査を実施して家族の意見を聞き、結果を家族に報告しています。出された意見は会議で職員全体で話し合い、サービスの向上に努めています。今後は運営推進会議に合わせ、家族会を定期的に開催する予定です。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人は年に2回職員の悩みや希望を書いた自己申告書を提出してもらい、それに添って管理者が面接して職員一人ひとりの思いの把握に努めています。また新しい職員には、半月から1か月かけてベテラン職員が付いて、個人ごとの症状をアセスメントシートで確認しながら、利用者顔と名前を憶えてもらうことで馴染みの関係を築いています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では新人、中堅、管理者に分けて研修計画が作られており、職員は随時参加しています。受けた研修については、会議の際に他の職員に報告し、資料は回覧しています。またホーム内でも、ノロウイルスやO157の勉強会を開催し、スキルアップを図っています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の中京区6事業所で毎月ブロック会議を行ない、意見交換したり、法人の評価票を作成し、他事業所を見学したりしながら情報交換をしています。また管理者が京都市グループホーム協議会の研修に参加し、他事業所との交流を図っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学できる体制があり、時間があれば、お茶や食事を提供して、職員の顔を憶えてもらったり、管理者と法人のグループホーム専門相談員が自宅や入院先を訪問し、本人や家族から情報収集しています。無理な見学や体験は入居の際、かえって拒否反応が強くなるがあるので、職員は徐々に馴染める雰囲気づくりを心がけています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	以前の生活環境に配慮して、利用者にさまざまな作業を行ってもらう中で、職員は利用者から味付けの際の隠し味や野菜作りでは苗の植え方や肥料のやり方を教わっています。また利用者と作業やレクレーションを一緒に行なうことで、共に楽しみ支えあう関係を築いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを利用して、利用者の思いや意向を把握し、カンファレンスで職員が話し合い、全職員が利用者の希望や意向を把握し、情報の共有に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族から電話等で要望を聞き、各ユニット毎に月2回カンファレンスを開催して職員全員で話し合いアセスメントを作成し、それをもとに介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月ごとに見直し、評価を行っています。見直しの際は家族に希望を聞き、アセスメントを取り直し、カンファレンスで職員の気づきや思いを話し合っています。状態の変化があるときはその都度見直し、計画を変更しています。カンファレンスごとにモニタリングをしていますが、記録が十分ではありません。	○	日々の介護記録を基にモニタリングを行い、記録に残したうえで、介護計画の見直しをされることが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が同行出来ない場合の通院介助や、利用者の希望による理美容、墓参り、カラオケ等に同行しています。また居室の仏壇の花や必需品の買い物と一緒に出かけたり、利用者の友人に会いに出かける支援をするなど、柔軟な対応を心がけています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望により、以前のかかりつけ医を継続している利用者もおられます。週に1回ホームの主治医の往診がありますが、受診が必要な場合は他の病院へ受診することもあります。急変の場合には指示を仰ぎ夜中にかけてもらう時もあります。職員は日々の健康状態を記録に残し、往診時に役立てています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に法人グループホーム相談員が利用者や家族に「看取りの指針」の説明をして同意を得ています。ホームが医療機関でないことと、看護師の常駐がないことなどの理由で食事が口から入らなくなった時が限界であると考えていますが、主治医、家族、ホーム側の話し合いにより、状態が安定している場合、出来る限りの対応をしていきたいという思いがあります。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合わせた言葉かけに配慮し、場面によって言葉を使い分け、丁寧な対応を心がけています。また個人情報1階事務所の書棚に鍵をかけて保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の起床時間に合わせて朝食の準備をして、朝食はバラバラにとってもらっています。自宅での生活リズムを崩さないよう、夕食も希望に応じて遅い時間に温めて提供するなどの配慮をして、利用者本位に暮らせるよう支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	冷蔵庫の食材を見て、利用者の希望に添ったメニューを考え、お誕生会には赤飯を作ったり、旬の物を取り入れて季節感を味わってもらうなど楽しい食事の工夫もされています。足りない材料は利用者と一緒に買い物に出かけたり、玉ねぎや豆の皮むき、味付け、片付けなどを職員と一緒にしています。利用者と職員は同じテーブルを囲み、楽しみながら一緒に食事をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後1時半から6時半頃までに入浴しています。寝る前に入ったり、ゆっくり時間をかけて入る利用者もいます。ホームではどの利用者も週に4、5回は入浴してもらっており、体調に考慮し、入浴出来ない利用者には清拭するなどの支援をおこなっています。また、時期によっては毎日シャワー浴もできます。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの生活歴を活かし、調理や掃除、菜園での野菜作り等を職員と一緒にしています。また趣味の編み物やフラワーアレンジメント、職員と一緒にわらびもちやクッキーなどのおやつ作りも楽しんでいます。ボランティアの訪問も利用者の楽しみの一つとなっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩に出かけたり、玄関先のテラスで外気浴を行っています。朝の涼しい時間に、近くの神社にお参りに出かけたり、車いすで職員と買い物に出かけることもあります。不眠の利用者に対しては外の風にあたるなどの支援をしています。また月に一度の行事として、温泉・コスモス・桜などの花見・紅葉狩り等、いろいろな場所にタクシーや公用車で外出する機会を設けています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	近くを国道が通っていたり、不審者の侵入を防ぐ意味でも、玄関は施錠しています。施錠については家族にも説明し、了解を得ています。毎日、昼間の何時間かは利用者の外気浴の時間を設け、施錠しない時間の確保に努めています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、消防署立会いの下、夜間を想定して、避難訓練を行っています。また事業所独自で、非常時の連絡網の確認や消化器の使い方の研修をしたり、出火時の注意事項についての講習をしています。法人でも定期的な消防訓練を推進しており、今後は近隣に声掛けして、協力を求めていく予定です。	○	より具体的に、地域の防災訓練にホームとして参加したり、運営推進会議等で地域の消防団や住民に呼びかけて、ホームの避難訓練に参加してもらうなどの取り組みを通じて、地域との協力関係を築かれることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録に残し、家族に報告しています。水分量は1日1200cc以上を目安に時間を決めて促しています。季節の野菜や果物を多く取り入れ、ご飯はやわらかめにし、なるべく原形はとどめるようにしたり、食欲のない場合は栄養補助食品を活用するなど利用者の状態に応じて提供しています。定期的に法人の管理栄養士に検食簿を見せ、指導を受けています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には利用者が植えた花がきれいに並べられ、利用者が雑談したり、地域の方々と交流できるようにテーブルと椅子が置かれています。階段昇降機を設置して、利用者が1階と2階を自由に行き来が出来るように工夫しています。廊下にさまざまな椅子や家具を置き、歩く際の手すり変わりにしたり、一人になれるスペースを確保しています。また、西日が入らないようによしずを掛けるなど心地よく過ごせる工夫をしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に下駄箱、洗面所、トイレ、専用ベランダがあります。またコンロや冷蔵庫は使用していませんが、ミニキッチンも付いています。畳の上にベッドを置いたり、絨毯を敷いてその上に布団を敷いている利用者もいます。殺風景な部屋にならないように家族に声をかけ、利用者の馴染みの家具、鏡台、テレビ、仏壇、ぬいぐるみ、家族の写真等を持参してもらい、居心地良く暮らせる支援をしています。		